

家庭菜園

Q & A

問題解決!



農産部 担い手課 営農主幹

検校 哲也

Q1 ゴーヤで日かげを作りたい。

A1 今や全国区の人気となったゴーヤ。野菜としての人気に加えて、緑のカーテンとしても広がっています。ゴーヤの葉は、切れ込みが深く、明るいグリーンをしているので、日光をやわらかく遮ってくれる効果があります。果実を収穫して、ゴーヤチャンプルなどにして食べる楽しみも提供してくれますね。

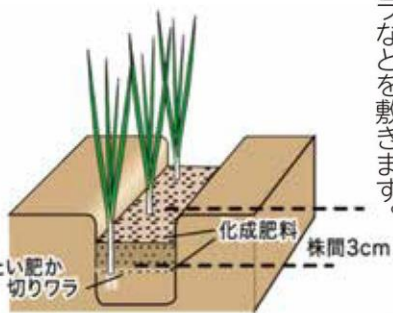
ただ、ゴーヤを育てるうえで注意していただきたいのが、「連作障害」です。「連作障害」とは、同じ畑で、同じ野菜を毎年連続して栽培したときに、極端に生育が悪くなったり、病気になるたりしやす



くなる現象のことで、ゴーヤはとくにその現象が出やすい作物なのです。作付する場所をずらす輪作で障害を防ぎます。ゴーヤの場合、最低3年間は同じ場所で作らない方が良くとされています。プランターで育てていた方で次の年も育てるときは、必ずプランターの土を交換すること。地植えで育てていた方は、同じ場所には植えないことが重要です。

Q2 ねぎの白根部分を長く育てるには？

A2 長ねぎの白根部分を長く伸ばすためには、あらかじめ植え溝を深く掘っておく必要があります。植え込んだ後は定期的な追肥と土寄せ作業が待っています。



まず、植え溝を深く15〜20cm掘り(幅も15〜20cm)、株間3〜4cmで溝の北側に立てかけ、株もとに土を寄せ、ワラなどを敷きます。

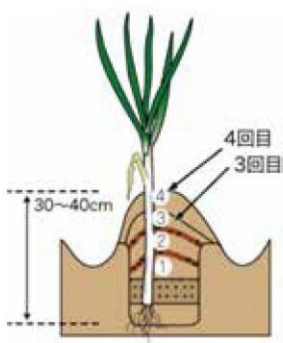
植えてから1カ月半ごろ1回目の追肥と土寄せ、その3週後に2回目、さらに3週たったら3回目、最後に4回目(収穫の1カ月前ごろ)に土寄せだけです。

収穫は、うねを崩しながら、ねぎを傷つけないよう気を付けて土を掘り起こします。

プランターで根深ねぎを作ろうとするなら、40cmでは厳しく、60cmの深さが必要となります。

ネギには、ある程度育てた緑の葉を食べる葉ネギ、葉ネギを若どりする小ネギといった種類もあります。

いずれも湿害に弱い作物ですが、暑さ、寒さ、乾燥にはよく耐えます。水はけに気を付けて作ってみてはどうでしょうか。



Q3 みかんに肥料はいつやるの？

A3 3月(花芽、新梢の充実)と6月(果実の肥大)と樹勢維持)、10月(樹勢回

復)に、油かすや有機の緩効性肥料を施肥すると効果的です。

果物の木は、基本的に根の先端から肥料を吸収するので幹に近い所は避け、枝の先端の下ぐらいに施肥しましょう。木を中心として輪を描くように深さ10cmに穴を掘り、埋めて与えるのが理想的です。

みかんのせん定は、2月下旬〜3月初めに混んだ枝を落として木全体に陽が当たるようにします。新芽が作られる前に済ませておくと、実付きを心配することはありません。

